



(左) 花田 司 氏  
昭和20年5月、34歳で戦没  
(右) 花田 良枝 氏  
昭和20年7月、28歳で病死  
赤子は写真提供者の弟（当時2歳）

これらは、昭和20（1945）年5月16日、  
フィリピン・ルソン島のヌエヴァ・ヴィス  
カヤ州イムガン北側高地において戦死され  
た、戦車第二師団特設第八機関砲隊所属の  
花田司氏に関する資料である。

氏は、昭和19（1944）年10月20日、  
門司港を出帆し、同年11月10日ルソン島  
マニラに上陸した。

爾後、マニラ高射砲隊司令官の指揮に入  
り、カロカン飛行場において防空戦闘の  
任に当たる。

昭和20年1月5日、第四航空軍司令官の  
指揮に入り、北部ルソン島ソラノに転進、  
途中カバナツアン南方パパヤで米軍の  
爆撃を受け、火砲は悉く破壊された。  
同月下旬、パヨンポンに到着し、以後、同地  
付近の警備の任に当たる。

同年4月上旬、新たに機関銃の交付を受け、  
戦車第二師団長の指揮に入り、ヌエヴァ・ヴィ  
スカヤ州イムガン北側高地に陣地を占領。  
ルソン島縦貫道路の占有を企図する米軍が  
北上し、戦車第二師団は第十師団とともに  
これを迎え撃つ。

同年5月中旬、部隊は多大の損害を受け、以  
後遊撃戦闘に移行。

「一日、この地で自分たちが頑張れば、日本  
本土に向かう米軍の進撃をそれだけ遅らせ  
るのだ」という気持ちを抱いて、  
凄惨な陣地戦を展開した。

この戦場を闘った米軍将兵が残した記録に、  
日本軍の戦闘ぶりに敬意を表した事例の大変  
多いことは、異例のことといわれている。